



日刊日曜日誌
日刊日曜日誌
日刊日曜日誌
日刊日曜日誌

プラトニック・ラブは
肉離の愛、若くは戀愛
潔淨の戀の謂だが此の
プラトニック・ラブの戀
愛をスタンダードと云
ふふ、プラトニックと云
はふざけた、いちやつ
き自己戀愛満足の意だ

千分の十一は高い
火保引下意見書(二)
平町の何所から見ても不當

無銭飲食二名
海軍の軍備縮小會議に關する
講演會を催すと

無銭飲食二名
石城郡好間村の北好間坑夫熊
田茂三は今日午前一時頃
平町の南明カフエーの非方
に於て所持金ある如く遊び遊
興の後一文なしと判り小署に
無銭飲食でつき出されたが同
村大字塚の上瓦葺鈴木重三
は昨日午後十一時頃平町字川
町料理店大真方に登樓遊興の
末所持金がなくて同じく小署
に無銭飲食でつき出された

Table with 2 columns: Item name and Amount. Includes items like 大葱, 小把葱, 油菜, etc.

公會堂の建設は 次年度に繰延か

平の豫算會は今六日終日 本會議は明後八日

平町新豫算の委員會は今日六日午前を以て終了午後三時から本會議となる模様を昨報したが問題の公會堂建設に意見の交錯を惹起して原案位置の維持と移轉説から遂に建設派と非建設派を分峙するに至つた爲め同計議は次年度に繰延

最高の榮譽を負ふ 磐中の四優等生

何れも同校自慢の粒撰り 學業操行共に如斯

五ヶ年の雪空しからず明七日磐中を巣立つ百八十九名の中にて暗れの賞を受くるものは優等四名、在學五ヶ年正副組長の勤続者三名、五ヶ年精勤卅三名、本學年精勤廿九名であるが學業操行共に優良で賞状並に賞品を授與される四君に對し同校の語る所を上げれば左記の如くである

少年求職

職斡旋は總ての手筈を整へて 各小學校の申込み待つてゐる

本年の磐中卒業生 出身地と志望別

父兄の職業では農家が一番 進學志望百二十八名

磐中學校では明七日午前十一時三十分卒業式を舉行されることが本同卒業生は百八十九名で此の出身地別を上げれば石城郡下では平町の三十三名、最高に計卅三名縣内他郡市に於て二十七名縣外二十九名である次に父兄の職業別では農業六六、商三六、會社員

町村財務講習會

明七日平町々會議事堂に於て 講師は富澤、會田の兩屬

縣では来る七日午前九時から時まで懇切に指導されることになり、町村財務講習會は平町々會議事堂に石城郡下に於ける各町村財務主任を招集し右の職務に關して講習をなすのであるが講師は地方課の富澤、會田兩屬の由で受講者の携帶する現金出納簿及び歳入出簿、歳入出計算及び現金計算表用紙、町村會計規程、地方制度規程等につき午後四

殉職警官に 同情

東都事件の殉職警官に對する世人の同情は既報の如くであるが昨日五日内務省警務局長派所に出張した警官が、同日何れも匿名で國家の爲めに命をすてた殉職警官に對して呉れる様々署長の取計ひを頼むとの書状と共に置き去つたものがある

軍縮會議の講演

十日磐中學校で縣立磐中學校では来る十日の陸軍記念日に午後二時半から海軍中佐千葉誠氏を招き

郵便振替貯金の話

振替貯金の機能
儲け本題に入つて先づ振替貯金とはどんなものかと謂ふと爲替と貯金制度の兩方の機能を帯びて居るものであつて、一口に言へば振替貯金口座を中心として金銭貸借の決済を媒介する制度である。

母イセ儀病氣之處療養相不叶三月五日午前一時死去致候間此段以紙上辱知諸彦に御通知申上候
追加来る七日午後二時自宅出棺力品等にて於て佛式に依り葬儀執行仕候
昭和十一年三月六日
親戚總代
諸橋敬一郎
諸橋久太郎
山下芳明

即ち此の機能を大別すると左の三つになる
一、加入者自身又は他人が其の加入者の口座に金を拂込むこと、之を「拂込」と言ふ
二、加入者が他の加入者に送金するとき、現金の受授をせず自分の口座の金を相手方の口座に振替へたり又其の雜誌社が爲替で送ると、之を「口座振替」と言ふ此の口座振替は國內の加入者相互間ばかりで無く外國の振替加入者と

